

報道関係各位

フランス人間国宝展関連企画
「日仏工芸の極み」 開催のご案内
9/14(木) 9/15(金) 13:00~

場所：東京藝術大学 COI 拠点 Arts&Science LAB. 4 階球形ホール(東京・上野)

拝啓、時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この秋、東京国立博物館で開催されるフランス人間国宝展では、フランス工芸の現代を代表する伝承者である15名の作家が作品を展示します。(※フランス人間国宝(メートル・ダール)とは、日本の人間国宝制度を基に、1994年に策定された、伝統工芸の革新的最高技能者に授与される制度です。)

この機会に、東京藝術大学 COI 拠点ではこのイベントと連動し、東京藝術大学特任教授である伊東順二をプロデューサーとし、日本とフランスのものづくりを新たな切り口から取り上げ、両国を代表する作家と今後の創作活動を担う東京藝大の学生達を交えたシンポジウム、パフォーマンス、ワークショップを企画いたします。

9月14日、15日の2日間にわたり、「うつす」「すく」「焼く」「かえる」「かざる」の5つをテーマに、本学特任教授作曲家千住明や、日本を代表する紙の商社である竹尾の竹尾稠社長をモデレーターに迎え、フランス人間国宝の作家たちと、同じく日本人で活躍する多種多様な作家、デザイナー、陶芸家らによるトークセッションを開催いたします。第一線で活躍する両国の作家の、国を超えたものづくりの情熱、両国の工芸の極みの架け橋となる瞬間を各テーマを通じてご体感ください。

両日ともに東京藝術大学の学生およびOBによるオープニングパフォーマンスを開催致します。

1日目は映像を用いた演出での、龍笛と日本舞踊のコラボレーションをお楽しみいただきます。2日目はオリジナルのアートコスチュームとダンスを使ったパフォーマンスを開催致します。

さらに、ワークショップとして、建築家隈研吾によるアルミ押し出し材を用いた、トラス型の可動什器のシステム「ポリゴニウム」を用いた、実際にフランス作家の作品を使った立礼でのお茶席を室礼致します。

ぜひともご来場、ご取材をご検討くださいますようお願い申し上げます。



「日仏工芸の極み」開催概要

【日 時】2017年9月14日(木)～15日(金) 13:00スタート

【場 所】東京藝術大学 COI 拠点 Arts&Science LAB. 4階球形ホール(東京・上野)

【主 催】東京藝術大学 COI 拠点 文化外交・アートビジネスグループ

【協 力】フランス大使館、HEART & crafts、高岡市、株式会社ジェクスト、株式会社ジェットセット

【プロデューサー】伊東順二(東京藝術大学社会連携センター特任教授)

【関連 URL】フランス人間国宝展 URL <http://www.fr-treasures.jp/>

スケジュール

9/14(木)

13:00-13:15	[趣旨] 伊東順二 / プロデューサー、キュレーター
13:15-13:30	[オープニングパフォーマンス] 野護元・藤間紫扇
13:30-14:00	[基調講演] 「ヨーロッパのルネッサンス」 磯村尚徳 / パリ日本文化会館初代館長
14:00-14:15	休憩
14:15-15:45	[シンポジウム テーマ1] 「うつす」 モデレーター 伊東順二 / 東京藝術大学社会連携センター特任教授 パネリスト(仏) Fanny BOUCHER / 銅板彫刻作家 パネリスト(日) 森田恭通 / デザイナー
15:45-16:00	休憩
16:00-17:30	[シンポジウム テーマ2] 「すく」 モデレーター 竹尾稠 / 株式会社竹尾 代表取締役社長 パネリスト(仏) Laurent NOGUES / エンボス加工作家 François-Xavier RICHARD / 壁紙作家 パネリスト(日) 堀木エリ子 / 和紙作家

9/15(金)

13:00-13:10	[挨拶] 青柳正規 / 東京藝術大学社会連携センター特任教授
13:10-13:25	[基調講演] 宮廻正明 / 東京藝術大学大学院教授、社会連携センター長
13:25-13:35	[オープニングパフォーマンス] 村尾拓美
13:35-13:40	休憩
13:40-15:10	[シンポジウム テーマ3] 「焼く」 モデレーター 伊東順二 / 東京藝術大学社会連携センター特任教授 パネリスト(仏) Jean GIREL / 陶芸作家 パネリスト(日) 十一代大樋長左衛門 / 陶芸家 三代目畠春斎 / 釜師
15:10-15:25	休憩
15:25-16:55	[シンポジウム テーマ4] 「かえる」 モデレーター 丸山智己 / 東京藝術大学美術学部工芸科鍛金研究室 パネリスト(仏) Nathanaël LE BERRE / 真鍮細作家 パネリスト(日) 相原健作 / 鍛金作家 中村信喬 / 人形師
16:55-17:10	休憩
16:55-18:25	[シンポジウム テーマ5] 「かざる」 モデレーター 伊東順二 / 東京藝術大学社会連携センター特任教授 モデレーター 千住明 / 東京藝術大学社会連携センター特任教授 パネリスト(仏) Nelly SAUNIER / 羽細作家 パネリスト(日) 館鼻則孝 / ファッションデザイナー

プロデューサー



伊東順二

東京藝術大学特任教授。美術評論家。アート、音楽、建築、都市計画など分野を超えたプロデュースを多数手がける。1995年「ベニス・ビエンナーレ」日本館コミッショナー。2005年～13年富山大学教授。08年～12年「金屋町楽市」実行委員長。前文化庁メディア芸術祭企画展プロデューサー。前長崎県美術館館長。パリ日本文化会館運営審議委員。富山市ガラス美術館名誉館長。九州芸文館プロデューサー。

挨拶



青柳正規

1944年、大連生まれ。国立西洋美術館館長、文化庁長官などを務める。現在、東京藝術大学特任教授、山梨県立美術館長、東京大学名誉教授、日本学士院会員。著書に『皇帝たちの都ローマ』、『ローマ帝国』、『文化立国論』などがある。

基調講演



磯村尚徳

1929年、東京生まれ。1953年NHK入局。パリ特派員を経てワシントン支局長、報道局長、専務理事待遇特別主幹などを勤めた。"ニュースセンター9時"の編集長兼キャスターを務め、"ミスターNHK"と呼ばれた。1995年パリ日本文化会館初代館長に就任。"レジオン・ドヌール勲章オフィシエ賞"・"芸術文芸勲章コマンドゥール賞"、日本記者クラブ賞受賞。



宮廻正明

1951年 島根県生まれ。日本画家、東京藝術大学大学院教授・社会連携センター長、日本美術院同人・理事、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団理事長。日本美術院展 外務大臣賞、文部大臣賞、内閣総理大臣賞、日本美術院賞受賞。

モデレーター



千住明

1960年東京生まれ。東京藝術大学作曲科卒業。同大学院修了。代表作にピアノ協奏曲「宿命」(ドラマ「砂の器」劇中テーマ曲)、オペラ「万葉集」「渾の白糸」、「カレンダー組曲」等。ドラマ「風林火山」映画「追憶」アニメ「Vガンダム」等多くの映像音楽も担当。受賞歴多数。東京藝術大学特任教授。



竹尾綱

1942年生まれ。1964年慶応義塾大学卒業後、紙専門商社勤務。米国ウェスタンミシガン州大学卒業。1968年に株式会社竹尾に入社。1991年社長就任。1994年には紙・ステーションリーを販売する「PCM竹尾」を設立。



丸山智己

1964年 神奈川県生まれ。1994年東京藝術大学大学院美術研究科修士課程鍛金専攻修了。1991年 東京藝術大学卒業制作買い上げ。2007年 淡水翁賞。Story Galley H 個展 2016年みなの衆展。現在 東京藝術大学美術学部工芸科鍛金専攻准教授。

フランス人間国宝側登壇者



©Philippe Chancel

Fanny Boucher

銅板彫刻作家。1976年生まれ。世界に10人程しかいないエリオグランビュール作家の一人。2000年、24歳の時にアトリエHello'gを設立。ジェラルド・カルスト、草間彌生、ウィリアム・ロニ、など、著名な写真家やアーティストから印刷の依頼を受ける。



©Philippe Chancel



©Philippe Chancel

Nathanaël LE BERRE

真鍮細工作家。1976年生まれ。建築家の祖父の影響を受け、オリヴィエ・ド・セル国立高等工芸美術学校(ENSAAMA)でステンドグラスを学び、その後、金属細工の道に進むことを決意。作品はパリのギャラリーパトリック・フータンなどで展示されている。



© Nathanaël LE BERRE



©Philippe Chancel

François-Xavier RICHARD

壁紙作家。1972年生まれ。画家、彫刻家、版画家でもあり、造形芸術家としての才能を活かして古い壁紙の修復やオーダーメイドの壁紙の制作を行う。19世紀の小説家ジョルジュ・サンドの家に始まり、シャンティイ城など、ヨーロッパ、アメリカにある多数の歴史的建造物の壁紙を手がける。



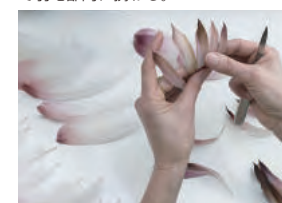
©Philippe Chancel



©Philippe Chancel

Nelly SAUNIER

羽細工作家。1964年生まれ。オクターブ・フィエの職業専門高校で羽細工の基礎を学び、オリヴィエ・ド・セル国立高等工芸美術学校(ENSAAMA)で上級技術者免状(BTS)を取得。1996年からの10年間、フランス芸術作品改革研究所(IFROA)の織維科で羽毛部門に携わる。



©Philippe Chancel



©Philippe Chancel

Jean GIREL

陶芸作家。1947 年生まれ。宋の時代の陶芸技術を学び、40 年以上にわたり「曜変天目」の研究を続けている。世界の陶器メーカーの技術コンサルタントを多数務め、スミソニアン博物館、大阪市立東洋陶磁美術館など、国内外の博物館で作品が所蔵されている。



©Philippe Chancel



©Philippe Chancel

Laurent Nogues

エンボス加工（ゴフラーージュ）作家。1968 年生まれ。オリヴィエ・ド・セー ル国立高等工芸美術学校（ENSAAMA）を卒業した後、1994 年、自身のアトリエを設立。シャネル、ディオール、イヴ・サンローランなど、世界の高級メゾンのカードやコフレなどを手がける。



©Philippe Chancel

パネリスト



相原健作

鍛金作家。金属を金錘で叩くという鍛金技法を巧みに操り、昆虫と生息環境をテーマに制作。鉄という重厚な素材を使いこなし、軽やかな独自の作風を確立。活動の幅は広く、野外モニュメントなど大型作品も手掛ける。現在、東京藝術大学特任研究員。



十一代大樋長左衛門

陶芸家。2016 年十一代大樋長左衛門襲名。大樋焼という茶道における茶陶の伝統を継承しながら、その創作活動は世界各地に広がる。また、左官技術は世界各地に広がる。また、左官技術を応用したインテリアデザインなどで受賞を重ね、近年では独自の現代アートを発表するなど、アーティストとしても活動は多岐にわたる。



舘鼻則孝

ファッションデザイナー。東京藝術大学工芸科染織専攻卒。レディー・ガガの愛用するヒールレスシューズの作者。近年は現代美術の領域にて、国内外の展覧会に参加。作品はメトロポリタン美術館や V&A 博物館などに永久収蔵されている。



Photo by I.Susa

森田恭通

デザイナー。1967 年大阪生まれ。GLAMOROUS co.,ltd. 代表。インテリアに限らず、グラフィックやプロダクトといった幅広い創作活動を行っている。また、アーティストとしても積極的に活動しており、2015 年より写真展「Porcelain Nude」をバリエーションで継続して開催している。



中村信喬

人形師。1957 年、福岡県生まれ。二代目人形師（故）中村衍涯（福岡県重要無形文化財）、陶芸家・故村田陶苑、人形師・林駒夫、能面師・北澤一念に師事。太宰府御神忌一千百年大祭の御神牛、菅原道真公像製作。1999 年日本伝統工芸展高松宮記念賞。2012 年福岡市文化賞 ローマ、ラ・ルーチェ展。ローマ法王謁見、作品献上。



三代目島春斎

1976 年富山県高岡市に生まれる。1997 年から父のもとで茶釜作りを教わる。2007 年日本伝統工芸展朝日新聞社賞受賞。2013 年日本伝統工芸展 NHK 会長賞受賞。



堀木エリ子

和紙作家。「建築空間に生きる和紙造形の創造」をテーマに、和紙インテリアアートの企画・制作から施工までを手がける。巨大な和紙を漉き上げる手法や、立体的に和紙を漉く技術を開発し、必要とされる機能や用途を与えるなど、新たな和紙の世界を切り拓いている。

【東京藝術大学 構内案内図】



会場はこちらです
(Arts & Science LAB. 4階球形
ホール)

◎本件に関する報道関係の方のお問合せ先

東京藝術大学社会連携センター
〔広報担当〕 担当：小澤（おざわ）
Tel 050-5525-2407 Fax 050-5685-7814
E-mail :ozawa.mako@pc.geidai.ac.jp